



みなみの風 11月号

《学校教育目標》 自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子の育成
重点目標 「生き生きわくわく～言葉を大切に、豊かな関わり・確かなつながりをとおして～」



例年より遅い富士山の雪化粧とともに、松田山ではライトアップが始まり、いよいよ年末が近づいてきたことを感じる今日この頃となりました。朝のあいさつでは、6年2組の児童の精鋭が、総合的な学習の一環としてともに立ち、取り組んでいます。また、道徳教育の牽引役となる道徳教育推進教師が校内放送で、あいさつの価値付けを改めて伝えることで、さらにあいさつの輪が広がってきていると感じます。

学期末を迎えるこの時期、子どもたちとともに様々な学びの確認をしていきたいと思います。

林間学校の経験を次のステージに…【5年生】

学校には様々な行事があり、学習指導要領において5つに分類されている中、その一つに「遠足・集団宿泊的行事」があります。さらにその中の集団宿泊的行事は、本校では修学旅行(6年で実施)と林間学校(本校では5年で実施)で構成されています。

今年度も、11月11日～12日にかけて足柄ふれあいの村で実施することができました。少し肌寒い中でしたが、計画的に準備を進めたことや、5年生の意欲あふれる主体的な言動により、とてもすばらしいものとなりました。5年の担任や引率の教員から「どの活動においても、自ら仕事を探し、集団としてとても立派だった」との言葉を数多く聞くことができました。これはとてもうれしいことです。

往復の行程も、それなりに距離があったにもかかわらず、全員が完歩したことや笑顔がとても多かったという事実も見逃せません。帰校した後、5年生の子どもたちと少し話をしたら、「もう一日あってもよかった」「来年は修学旅行ではなく林間学校をもう一回行きたい」などの声があがりました。今回の行事が、いかに充実していたかがこのことからわかります。

この行事をとおして得た学びを、次の学びのステージにあがるための糧としてほしいものです。



火の神が降臨してきたキャンプファイヤー



仲間とともに校外学習に行ってきました【1～3年生】

近年は行事等の精選が行われ、以前の「遠足」というものから「校外学習」となり、学びの要素を取り入れた形となっています。とはいえ、学校内では味わえない体験学習や、日頃の給食とは違い、弁当による昼食、そして楽しみなお菓子を食すなど、子どもたちにとっては、「遠足」に他ならないのかもしれませんが…。

11月に入り、1～3年生が校外学習に行ってきました。詳細はすでに学年通信やお子さんの話から伝わっていると思いますので、ここでは、写真の紹介のみとさせていただきます。みんな本当に楽しそうです！



1年生 校外学習

令和6年11月13日(水)

神奈川県立生命の星・地球博物館
石垣山一夜城公園





2年生 校外学習
令和6年11月13日(水)
新江ノ島水族館



3年生 校外学習
令和6年11月18日(月)
横浜港シンボルタワー
はまぎんこども宇宙科学館



教育相談の諸対応を学ぶ ～カウンセリングマインドをもって～

岡崎スクールカウンセラーを講師に、教職員を対象に教育相談に関わる研修を実施しました。保護者に共感し、相談を適切に受け止めるためにはどうあるべきかを改めて学びました。研修の後半には、実際に想定した演習を行い、活発な意見と具体的な声掛けを学ぶ機会となりました。

日頃の対応について、まだまだ至らぬところもあるかと思いますが、教職員も適切な対応となるよう日々努めています。保護者の皆様の思いを少しでも受け止められるよう、準備して教育相談にあたりたいと思います。



ともに学ぶ必要性 ～1年生の授業研究から～

右下の写真は、過日行われた1年生の研究授業の一場面の様子です。現行の学習指導要領では、インプット(知識・技能の習得)に加え、アウトプット(主体的な学び、プレゼン型など)の重要性がうたわれています。個々の得意なことを生かし、よりよいものを創造する力が求められています。それは個のレベルでは難しいことを協働的な学びをとおして育成することになります。

写真の1年生は、折り合いを付けながらともに学び、アイデアを統合しており、この8か月の成長を感じました。



ミシンボランティア・ふれあいクリーンデーにご協力いただき、ありがとうございました
一定期間にわたりご支援いただいたミシンボランティアの方々、また11月16日に200名を超える参加をいただいたクリーンデーについて、公私ともにご多用の中、ご協力いただきありがとうございます。
改めて、本校は保護者や地域の方々に支えられていることを実感しています。ご支援いただいた方々への還元は、教育活動の充実でしかお返しできません。より一層「明日も行きたくなる学校」を目指します。

「子育てアラカルト⑥ ～『学校が楽しくない』と言ったら～」

学校から帰ってきて、子供が「学校が楽しくない」と言ったら、みなさんはどう対応しますか？おそらく、「どうして？」「何があったの？」と聞くのではないかと思います。

では逆に、学校が楽しい時とはどういうときでしょうか。「みんなと協力して何かを成し遂げたとき」「わからなかったことがわかったとき」「新しい発見をしたとき」などがあると思いますが、「自分の思いどおりになったとき」もその一つかもしれません。「楽しい」という言葉を聞くと安心しますね。では、元に戻ってみると、自分の思いどおりにならなかったときに「楽しくない」と感じる可能性があるということです。よくわかる話ですが、その時に大人はなんと声を掛けるとよいのでしょうか？

私は、「仲良く」があまり好きではありません。誰一人コピーではなく、一人の人格者として存在する子供たちは、資質・能力が異なり、それに伴い価値観が違うのは当然です。その中で価値観が近い場合仲良くなりやすく、価値観が大きく異なると仲良くなりにくいということなのでしょう。だからこそ、簡単に「仲良く」はなりえないのです。そこで必要なのが「折り合い」を付ける能力になります。自分の主張と相手の主張の折り合いを付けて、バタ～な方向性を導き出す力が必要です。「喧嘩するほど仲がいい」は、使い古された言葉かもしれませんが、改めて考えるとなるほど、と思います。「楽しくない」という言葉が聞こえてきたとき、誰かに依存をするのではなく、「では、楽しくするには？」を主体的に考えられる子を育てたいです。